

<後期オリエンテーション>

A. 講義予定

はじめに - 「宗教と科学」関係論構築を目指して -
 導入：なぜ・いかにして関係を問うのか - モルトマンの場合 -

1. 自然神学とその再構築

自然神学の成立とその意義
 中世から宗教改革期
 科学革命と自然神学
 近代イギリスと自然神学の伝統
 進化論論争と自然神学
 自然神学の再構築

2. 「宗教と科学」関係論の基礎

形而上学再考
 ホワイトヘッドの宗教論
 プロセス神学の挑戦
 プロセス神学と「宗教と科学」関係論

前期講義のまとめ - 後期への導入として -

10/7

3. 現代の生命論・環境論とキリスト教思想

現代の生命論と神学
 自己決定原則とキリスト教
 環境破壊の原因を問う - 欲望論 -
 環境破壊を超えて - ヴィジョン・希望・共感 -

3. 現代の環境論とキリスト教思想

創造論と環境 - いわゆる人間中心主義について - 10/14
 自然神学の生命論と環境破壊 - 近代の諸相 - 10/21
 環境破壊の原因を問う - 欲望論 - 10/28
 環境破壊を超えて - ヴィジョン・希望・共感 - 11/11

4. 現代の生命論とキリスト教思想

現代の生命論と神学 - 問題状況 - 11/18
 創造論の視点から - 人間の創造性とは - 12/2
 自己決定原則とキリスト教 12/9

< 休講 >

11/4 : 東京出張

11/25 : 11 月祭・韓国出張 (国際セミナー)

前期講義のまとめ - 後期への導入として -

< 前期講義の概要 >

1 . 自然神学の源泉と歴史的展開

とくに、近代イギリスの自然神学を中心に

ニュートンとニュートン主義の思想内容

ニュートン主義の自然神学の社会的文脈

2 . 進化論問題

自然神学の文脈で

キリスト教と進化論との関係性をめぐって

多様な応答のあり方、地域的文脈での議論の必要性

真の争点は何か：因果論と目的論、偶然性と決定論

プロセス神学 (グリフィン) : 有神論と自然主義

有神論的自然主義

自然主義的有神論

3 . 形而上学再考の具体的な試みとして

ホワイトヘッドとプロセス神学 (ハーツホーン、カブ)

< 後期への展開 >

1 . 近代という問題状況

・キリスト教の積極的関与：ニュートン主義の自然神学と自然科学との緊密な関わり

キリスト教の責任

近代の科学技術文明が環境破壊の元凶であるとすれば、

キリスト教はその共同責任を負っているのではないか？

・二つの近代 (近代の諸相) の精密の分析の必要性

17 世紀と 18 世紀との相違、ニュートン主義を手がかりに

欲望、そして希望

2 . キリスト教自然神学は人間中心主義か？

3 . 創造論をめぐって

創造性 / 神の世界創造、神の創造性 / 人間の創造性

創造論は自然主義と調停可能か？

ホワイトヘッドとキリスト教神学 (パネンベルク)

人間の創造性は、神の創造性への参与、神の創造性は人間の創造活動において働

いているとするならば、現代の新しい生命技術は神学的に肯定されるべきなのか？

問題：規範、判断規準の問題

4 . Ted Peters, *Science, Theology, and Ethics*, Ashigate 2003

Are We Playing God with our Genes ?

the idea of God as creator, the world as creation

My own way of conceiving of creatio ex nihilo together with creatio continua is as follows.

The first thing God did was to give the world a future. The act of drawing the world into existence from nothing is the act of giving the world a future. (221)

The second step in the argument is to conceive of the human being as the created co-creator.

Human creativity is ambiguous.

We cannot not be creative. (222)

5 . 進化論論争は単なるキリスト教的あるいはアメリカ的な問題ではない。

進化と価値・規範との関係性の議論は、人間の創造行為の価値・規範の議論と連動する。